

問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部航海情報課

主任海図編集官 細萱(ほそがや)泉

電話 03-3541-4201 (内線 648)



平成21年10月1日

海上保安庁

日本から提案した6件の海底地形の名称が国際的に登録されました

世界の海底地形名の統一を図っている大洋水深総図(GEBCO)/海底地形名小委員会(SCUFN)が開催され、日本から提案した下記6件の海底地形名が国際的に承認・登録されました。

香取海山(かとりかいざん) 拓洋第4海山(たくようだいよんかいざん)
拓洋第5海山(たくようだいごかいざん) 鬼界カルデラ(きかいかるでら)
風神海山(ふうじんかいざん) 雷神海山(らいじんかいざん)

国際水路機関(IHO)及びユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)が共同で推進するGEBCO(大洋水深総図: GEneral Bathymetric Chart of the Oceans)委員会は、全世界を均質にカバーする海底地形図を作成するための国際プロジェクトで、その中に世界の海底地形名の統一を図ることを目的とした海底地形名小委員会(SCUFN: Sub-Committee on Undersea Features Names)があります。

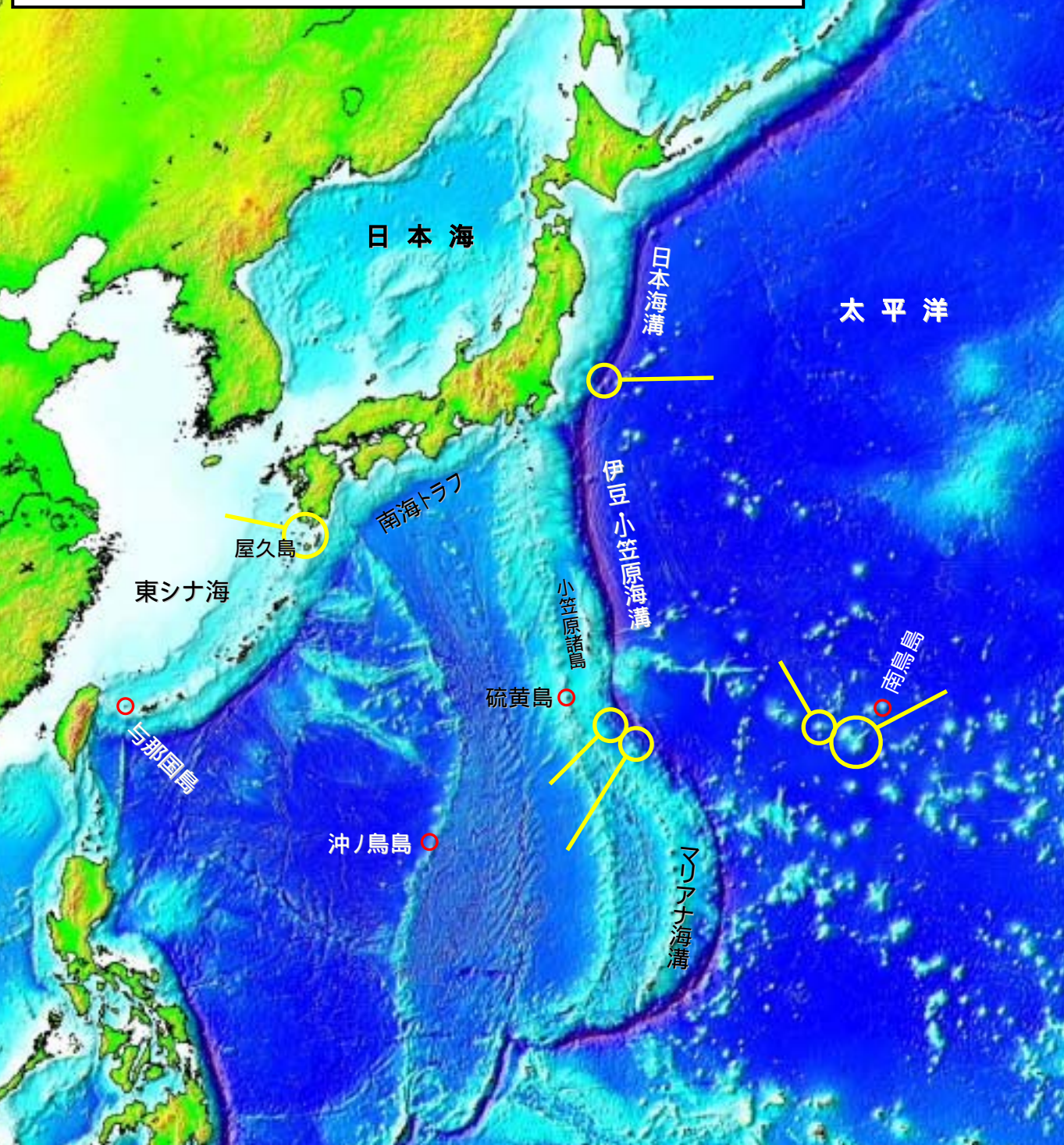
この度、第22回SCUFNが9月22日から26日まで、フランス(ブレスト)で開催され、世界各国から提案された海底地形名が審議されました。


日本からもSCUFN委員である海上保安庁職員を派遣するとともに、新たに発見された海山や国際的に登録されていない海底地形名6件をSCUFNに提案しました。

日本のほか6カ国と個人から49件の海底地形名が提案され、審議の結果、26件が採択されました。日本の提案地名は全てが承認され、GEBCOに登録されました。

第22回GEBCO/SCUFNで登録された日本が提案した海底地形名位置図

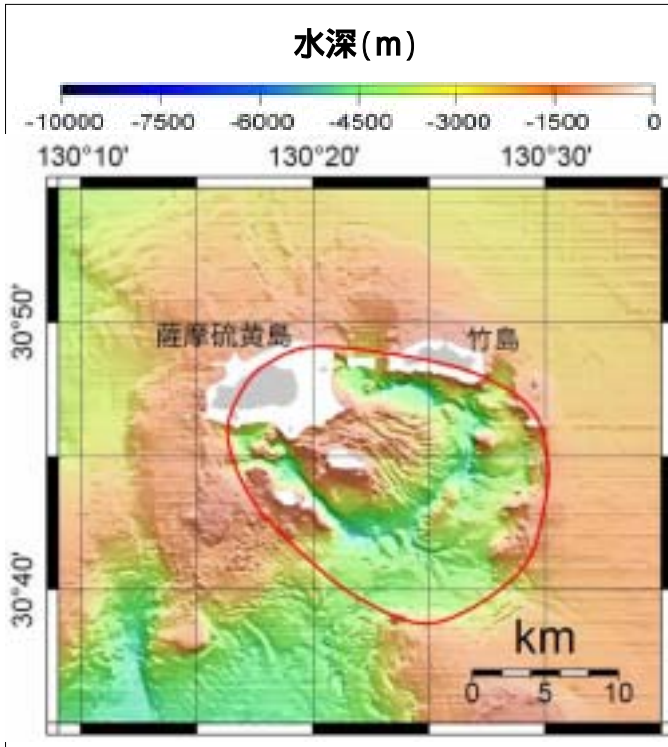
香取海山(かとりかいざん) Katori Seamount
拓洋第4海山(たくようだいよんかいざん) Takuyo-Daiyon Seamount
拓洋第5海山(たくようだいごかいざん) Takuyo-Daigo Seamount
鬼界カルデラ(きかいかでら) Kikai Caldera
風神海山(ふうじんかいざん) Fujin Seamount
雷神海山(らいじんかいざん) Raijin Seamount



水深(m)	香取海山(かとり かいざん)
	本州東方の茨城県沖、常磐海山列の西端に位置します。香取海山の直ぐ西側は日本海溝が南北に連なっています。1958年に東海大学の調査船によって発見され、国内では1979年に登録されましたが、国際的には未登録でした。その後、海上保安庁の調査により詳細なデータが得られたので、今回の提案となりました。名前の由来は、茨城県にある「香取神宮」にちなんで名付けられました。東西南北20km、最大水深は7000m、最浅は4200mで、海底から約2800mの高さを誇っています。
	
香取海山	常磐海山列

	拓洋第4海山(たくようだいよん かいざん)
	北西太平洋、南鳥島の西南西方約220kmに存在します。1985年に海山を発見した海上保安庁の測量船「拓洋」の名前に由来します。国内では1986年に既に決定された地名でしたが、国際的には未登録でした。その後、1999年とその翌年に再び「拓洋」で詳細な調査が行われ、全容が明らかになりました。南北に60km、東西に100kmの拡がりを示し、最大水深は5600m、最浅は950mで、海底から4650mの比高があります。海山の東には、尾根状の高まりが長さ50kmに渡って延びています。

	拓洋第5海山(たくようだいがいざん)
	北西太平洋、南鳥島の南西方約150kmに位置します。拓洋第4海山と同じく1985年に発見した測量船「拓洋」の名前が付けられています。国内では1986年に登録済みですが、国際的には未登録でした。第4海山と同じく「拓洋」で詳細な調査が行われ、これまで知られていた最浅より更に浅い水深が発見されました。海山は、東西南北150kmで三方に広がっています。最大水深は5300m、最浅は810mで海底から約4500mの比高でそびえています。水深810mの最浅水深を持つ北西側の海山と水深910mの南東側の海山が結合して、一つの海山を形成しています。海山の北東側は尾根上の高まりが長さ50kmに渡って延びています。また、海山の頂は平坦なテーブル状の平頂海山となっています。



鬼界カルデラ(きかい かるでら)

九州南方、屋久島の北方約20kmにあるこのカルデラは、7300年前の大噴火によって形成され、その後海底に没しました。カルデラの北東に位置する薩摩硫黄島は、現在も盛んに活動しています。

カルデラは戦前の1943年に発見され、名前はカルデラ縁の一部にある鬼界島(薩摩硫黄島)に由来します。

海図にもその名称が記載され、知名度が高いにもかかわらず、国内及び世界的にも未登録でした。

2006年から3年間に渡る海上保安庁の調査で、その全容が明らかになりました。東西22km、南北19kmで、広さは64km²に及び、規模は世界的に有名な阿蘇のカルデラ(南北25km、東西18km)に匹敵します。

外輪山、カルデラ床、中央火口丘から成り、カルデラの特徴を示しています。最大水深はカルデラ床で588m、最浅は中央火口丘の水深13mで、比高が575mに達します。

風神海山(ふうじん かいざん) 雷神海山(らいじん かいざん)

硫黄島の東南東方約200kmにあるこの二つの海山は、今年の調査で発見され、熊本大学から提案されました。

独立した一対の海山であることから風神雷神屏風図(国宝;17世紀前半の俵屋宗達の作、京都建仁寺蔵であるが現在は京都国立博物館に寄託されている)になぞらえて、北部が「風神海山」南部が「雷神海山」と名付けられました。

風神海山は、東西南北約20kmに及び、最大水深6250m、最浅は3293mで比高が約3000mあります。

雷神海山は風神海山の南東方約50kmに位置し、南北15km、東西25kmに及びます。最大水深5649m、最浅は3738mで、比高は約2000mあります。

